

# 気胸について

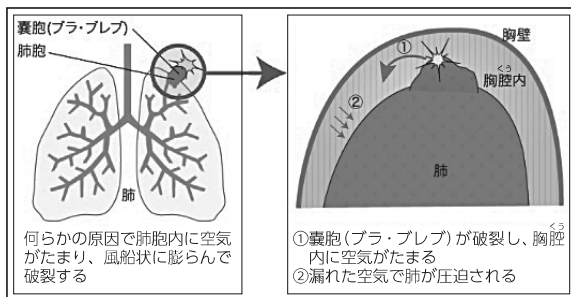
外科 田所 和樹

## 【気胸】

肺は胸郭というカゴの中に納まっており、主に横隔膜が緊張したり緩むことで容量が変化して呼吸しています。横隔膜が弛緩すると息が吐けるのは肺自体にゴム風船のように縮む性質があるからです。気胸とは肺を包んでいる膜（胸膜）に穴が開いてしまい、そこから肺の外側の胸腔内に空気が漏れ出て、胸の中で肺が縮んでいる状態を言います。

### ① 自然気胸

気胸は、10歳代後半、20歳代、30歳代に多く、やせて胸の薄い男性に多く発生します。肺が一部、ブラと呼ばれる袋になり、ここに穴が開きます。これは運動をしているときに起こすわけではありません。交通事故やナイフで刺されたというような、明らかな理由もなく発生します。自然気胸では肺に穴が開いて一時的に空気が漏れますが、多くはすぐに閉じてしまいます。漏れた空気は血液に溶け込んで次第に消失します。気胸の問題点は、穴がふさがらず空気が漏れ続けるときです。また、しばしば再発を起こすことも問題です。



### ② 続発性気胸

肺気腫や間質性肺炎、肺がんのように何か肺の病気があり、これが原因となって起こることもあります。肺の病気を持っている人になるので比較的高齢者に多い病気です。

### ③ 外傷性気胸

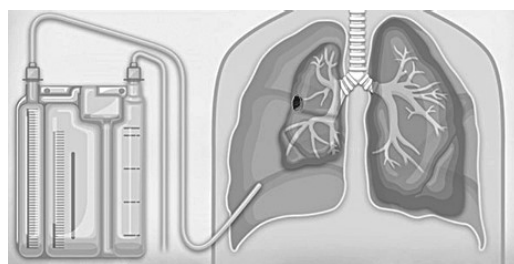
交通事故で肋骨が折れて、肺に刺さると気胸を起こし、これを外傷性気胸と呼びます。病院で針をさすような治療や検査を受けたときにも気胸を起こすことがあります。

### ④ 月経随伴性気胸

生理の前後に発症する気胸です。月経随伴性気胸の原因は、子宮内膜症が横隔膜に広がり、生理のときに横隔膜に穴が開くことにより空気が胸腔に入り気胸となる、あるいは肺に子宮内膜症があり生理に際して穴が開くことが原因であると考えられています。気胸は女性には比較的少ないので、女性が気胸を起こしたときは、月経随伴性気胸の可能性を考えておかななくてはなりません。治療は外科療法かホルモン療法を行います。

## 【気胸の治療】

原発性自然気胸では、中等度以上であれば脱気のために胸腔ドレーンを胸の中に挿入します。初発の気胸の場合、空気漏れが自然に止まればドレーン抜去を行います。一度治療しても再発の可能性が50%程度、再発すると再々発の可能性が70%程度と非常に高い確率で起こります。よって、空気漏れが止まらない場合や再発を繰り返す場合、初回であっても原因となるブラが明らかである場合は手術を検討します。続発性自然気胸は原則的に手術を行います。高度の肺気腫がある場合などは手術を行わず、胸腔内に薬剤を注入して肺と胸壁を癒着させる胸膜癒着療法や、気管支鏡で気管支内腔を塞ぐ気管支塞栓術を行うこともあります。



年齢を問わず若い方でも、胸痛、息切れ、呼吸苦などの症状がある場合は受診されることをお勧めします。

### オンライン面会を行っています。

予約制となっておりますので  
御希望の方は 公立世羅中央病院  
☎0847-22-1127へ  
お問合せください。



### お詫びと訂正

広報せら8月号に掲載した内容に誤りがありました。  
p10 公立世羅中央病院だより  
誤:骨粗鬆症 ⇒ 正:骨粗鬆症  
訂正し、お詫び申し上げます。